

手記

九・二八坑内火災の日を迎えて

坑内火災CO患者家族 坂上 千ヨノ

三川鉱の坑内火災(昭和四十二年九月二十八日)が起きてから、早くも満十二年を迎えます。

CO中毒に苦しむ被災の夫に

なぜ補償打ち切りか

「あなたが何んかきても同じじゃないか。『よし、これから一生懸命に頑張るぞ。俺は学校を出ていなければならぬ。』と、俺は、この災害は、会社の保

「レビを消さんか」といふので、私達は虫を殺さないようにしなければならぬ。家族の苦しみは言葉では表わされず、子供が「お父さんは、いつまでも入院しつゝなはるとよばれてるね」と言いますが、そのお父さんの退院の日

「大量のガスが出ることはあつたか。」
「答え、そんなことはない。ガス爆発は、起こってない。」「対策は、どうだったか。」

証言台に立つて

CO患者家族 塚本 スミエ

今回の公判では、私自身が証言台に立ち、CO患者と家族の苦しみと訴えることになり、何をどう訴えれば良いか、果たしてそんな大任が果たせるかなど、不安でいっぱいでした。

どこも同じ会社態度

山野裁判、会社証人が証言

山野裁判に 対する会社側の態度も、その公判を通じ、一般的に三池と同様、保安上の不注意、連絡不徹底、あるいはガス点検の不備など、ガス爆発の原因を思

明年三月いよいよ判決 会社の策動見ごと封じ

上村控訴審が結審

九月十七日、午前十時より上村裁判控訴審の第二十一回公判が、また同十時三十分より、三池大災害裁判の三十二回公判が、それぞれ開かれました。

涙の告発今後

大災害 裁判 ようやく大詰へ

三池大災害裁判は、前回に引きつづきCO患者家族が証人に立ち、十六年間の苦しみを通じ、被災の悲惨さを告発しました。

お知らせ

三池大災害裁判公判について、別に四山指導部の川野房雄さんと三池主婦会本部指導部の白井建設

原告団消息

の選族集会。

8月2日 原告団編集会議。
6日 受川ミヨ子さん(熊大病院入院中)、同じく入院中のC

7日 故受川ミヨさんの葬儀。原告団を代表し、石原・患者家族の会長が弔辞。この日、原告団、CO患者家族証人